

## まち紹介

松戸

## 松戸の交差する通り

文・写真

青山 貴仁

松戸市にある新京成電鉄常盤平駅ロータリーの入口で交差する二つの通り、一つは八柱駅付近から五香駅付近まで新京成電鉄と並行する全長約3.1kmのさくら通り、もう一つは交差している常盤平さくら通り入口から常盤平団地公園入口までの全長約1kmのけやき通りがあります。



▲ さくら通り

さくら通りは日本の道100選、けやき通りは新・日本街路樹百景に選定されていて、この二つの通りが交差しているのは珍しく、他に同じような場所はないのではないかと思います。



▲ けやき通り



▲ 日本の道100選記念碑



▲ 新・日本街路樹百景記念碑



▲ さくらまつりの様子

さくら通りは毎年春にさくらまつりが開催され、多くの人々が訪れてくださいます。桜が満開の時の景色は圧巻で、松戸市民が誇れるものですが、年々木の寿命が近くなり、徐々に幼木と置き換えられていて残念な気がします。



▲ 夏のけやき通り

けやき通りは葉が生い茂る季節になると木陰が大きくなることに成長の凄さを感じます。

この常盤平の思い出は私と父とは全く違います。父は常盤平団地が建設される際、現場監督で携わっており、現在でも常盤平団地中央商店街として残っています。

その頃の桜の木や榎の木は人の背丈より低く、周辺は何も無く田畑や森が広がっていたそうです。

その父が現在の常盤平を見ると木々や街の成長ぶりに大変驚いています。私は出生時から4歳くらいまで一家で常盤平に住んでおり、木の大きさは覚えていませんが、当時の記憶の中には空地に土管が置いてあったりして漫画のドラえもんにも描かれていた様な日常がありました。

さくらまつりも祖父に抱かれた私の写真がアルバムにあります。



▲ 常盤平団地中央商店街

けやき通りでは地方の農家の方がお米などを売りに来ていたこと、母の買い物についていってお米のおまけでもらえたお餅が大好きでよく食べていたことを覚えています。

以上の記憶は昭和51年頃でしょうか、幼い頃はよくかけっこをして転んでは膝小僧にかさぶたを作って、いじっては親に叱られていました。皆懐かしい思い出です。

常盤平から小金原そして松戸と引っ越し、松戸市に住み続けて50年近く経ちました。

昭和から平成、令和と時代が変わり、景色も変わりました。地元に残っている同級生も少なく寂しい気もしますが、建築設計を生業とし、少しでも地元に貢献できれば良いですし、また全国の建築士事務所の仲間と活動をしていると、千葉県や松戸市への愛着が増していくのを感じます。

仕事と生活の基盤としてこれからも松戸市に住み続けて頑張っていけたらと思います。